

祝『朝鮮通信使に関する記録』 世界記憶遺産登録決定！



瀬戸内牛窓国際交流フェスタで再現された朝鮮通信使行列

申請の内容

■申請の名称

「朝鮮通信使に関する記録－17世紀～19世紀の日韓の平和構築と文化交流の歴史」

■申請者

- 日韓2民間団体の共同申請
- ・日本側 NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会
- ・韓国側 財団法人釜山文化財団

■申請の概要

朝鮮通信使に関する記録は、1607～1811年までの間に江戸幕府の招請により朝鮮国から日本国へ派遣された外交使節団に関する資料で、両国の歴史的経験に裏付けられた平和的・知的遺産であり、恒久的な平和共存関係と異文化尊重を志向する人類共通の課題を解決するものとして、顕著で普遍的な価値を有している。

■申請の件数

日韓両国所在の朝鮮通信使に関する外交、旅程および文化交流の記録：111件 333点
 (日本側：48件 209点、韓国側：63件 124点)

【詳細】

- I 外交記録 5件 51点
 - 日本側：朝鮮国書など(3件 19点)
 - 韓国側：通信使贈録など(2件 32点)
- II 旅程の記録 65件 136点
 - 日本側：行列絵巻など(27件 69点)
 - 韓国側：使行録関係資料など(38件 67点)
- III 文化交流関係記録 41件 146点
 - 日本側：漢詩集、筆談唱和集など(18件 121点)
 - 韓国側：筆談唱和集など(23件 25点)

【うち瀬戸内市内で所蔵されている記録】

文化交流関係記録 本蓮寺朝鮮通信使詩書 1件9幅
 (本蓮寺所蔵、岡山県立博物館寄託)

登録決定
までの流れ

- 2012年 5月 朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会釜山大会でユネスコ共同登録を推進する旨の提案がなされる
- 11月 朝鮮通信使縁地連絡協議会臨時大会で事業推進を決議
- 2014年 5月 朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産日本推進部会設立
- 6月 朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産日本学術委員会設立
- 12月 朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産日本推進部会に瀬戸内市が加入
- 2015年 12月 朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産日韓共同学術会議で申請内容の確認と決定
- 2016年 1月 朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産日韓共同申請書調印式
- 3月 ユネスコ委員会に申請書提出
- 2017年 10月 ユネスコ諮問機構の世界記憶遺産国際諮問委員会(ICA)の評価後、ユネスコ事務局長が登録可否の最終決定を行い、登録が決定される

日本側のNPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会(※1)と韓国側の財団法人釜山文化財団が共同申請した『朝鮮通信使に関する記録』が「世界記憶遺産(世界の記憶)」(※2)に登録されることが決定しました。

※日本時間の10月31日、国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)が発表

世界記憶遺産に登録が決定した記録は、日韓合わせて111件333点ののぼり、本蓮寺(牛窓町牛窓)に伝わる県指定重要文化財(歴史資料)の「本蓮寺朝鮮通信使詩書」(9幅)も含まれます。

※1 NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会には、瀬戸内市をはじめ、対馬市や京都市など、朝鮮通信使とゆかりのある自治体が参加しています。

※2 世界記憶遺産とは、ユネスコが主催する事業の一つで、危機に瀕した古文書や書物などの歴史的記録物を保全し、広く公開することを目的としています。

広報事業でパリを訪問。倉地克直氏(岡山大学名誉教授)が朝鮮通信使について講演



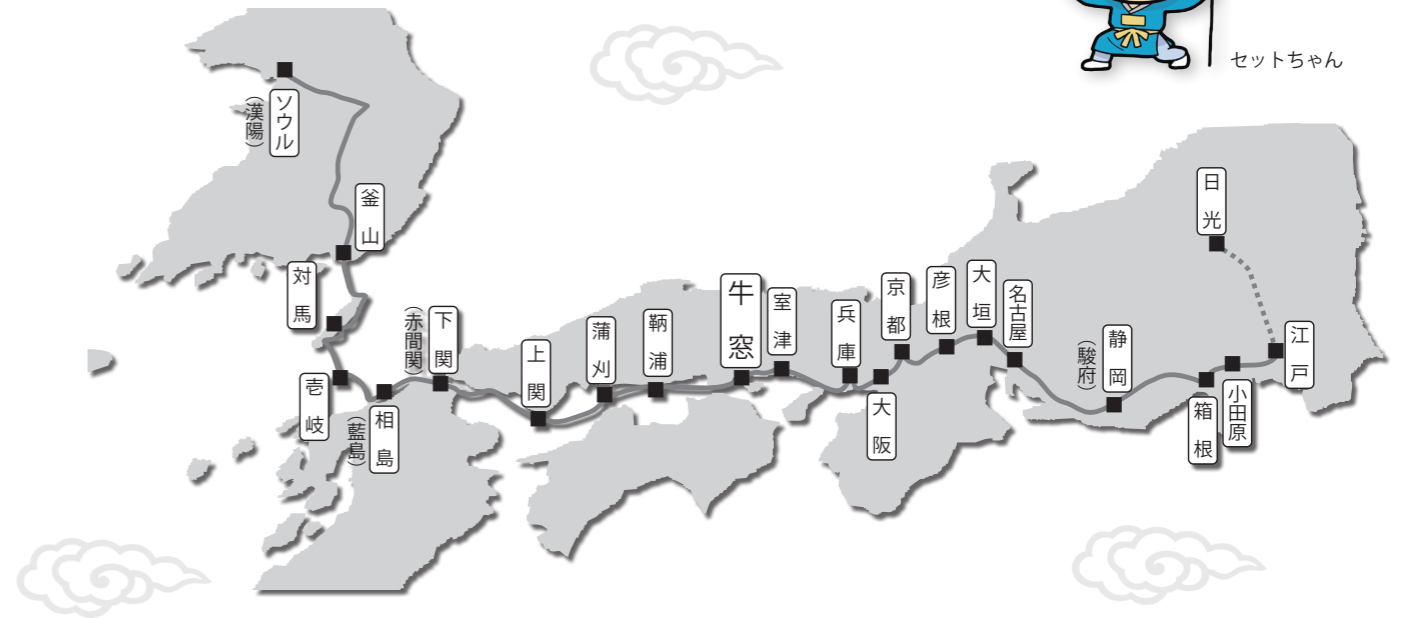
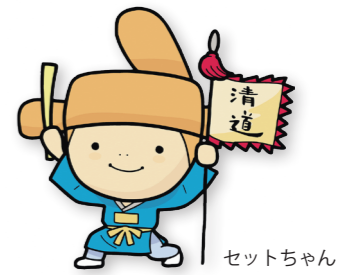
パリのユネスコ本部を訪問し、推薦状を提出



登録決定を受け、市では懸垂幕ののぼりを設置

本蓮寺朝鮮通信使詩書

瀬戸内市と朝鮮通信使



朝鮮通信使とは

朝鮮通信使は、朝鮮王朝が日本に派遣した外交使節団で、両国間の外交課題の解消や将軍の代替わりを祝賀することを主な目的とし、江戸時代に12回来日しました。

その際、朝鮮国王と徳川将軍は国書を交換し、両国の友好関係を深めました。また、日本の民衆は通信使がもたらす異文化に憧れ、通信使と藩の儒学者などは各地で活発な文化交流を行いました。

朝鮮通信使の行程

通信使は、対馬藩の先導で釜山から船で対馬、杵岐を経由し、瀬戸内海に入ります。瀬戸内海では、赤間関(下関)や鞆(福山市)、牛窓、兵庫などに寄港しながら大坂まで進みます。大坂からは船を川船に乗

り換え淀川を上り淀まで進むと、そこからは陸路を進み江戸へ向かいます。帰路はこの逆の道順をたどることになります。瀬戸内海の寄港地として指定された牛窓港(牛窓町牛窓)は、江戸時代に岡山藩が接待をする港として整備され、通信使が計11回(第12回は対馬での応接のため、瀬戸内海まで来ず)寄港し、そのうち9回は上陸して宿泊しました。

牛窓に残る朝鮮通信使の足跡

通信使一行の宿舎となった本蓮寺には書軸などが、宿館となった御茶屋の跡地には土塀の礎石などが残っています。潮待ち風待ちの港として栄えた牛窓は、江戸時代に藩の重要な港として港灣整備が行われ、今も一文字波戸や牛窓燈籠堂跡などが残っています。

また、牛窓町牛窓紺浦に受け継がれている「唐子踊」も朝鮮通信使の影響を受けているといわれています。



唐子踊

通信使が詠んだ詩書

本蓮寺は江戸時代初期に通信使の接待場所になっており、通信使が詠んだ詩書などが伝えられています。そのうち、1643(寛永20)年、1655(明暦元)年、1711(正徳元)年に来日した正使、副使、従事官、製述官、書記が詠んだ詩書で、筆者がはっきりしている9幅について世界記憶遺産への登録が決定しました。詩書の内容は、牛窓や本蓮寺の情景にも触れるもので、通信使と地域の交流を明確に示す大変貴重な資料です。そのうちの一つを紹介いたします。

朝鮮通信使従事官申濡詩書

牛窓の海浜に寺は古さびて僧侶も僅か、竹や藤が生い茂り日の光をさえぎって静寂そのもの。投宿の旅人は方感もごも、眠らずに夜半が過ぎ、蚊のうなり声だけが勢よく、門内奥深い部屋にやかましい。

「宿泊した本蓮寺は大変静かで、蚊の羽音が雷のように大きく、門をふるわせるほどであった」と詠んでいます。当時の本蓮寺が静寂な雰囲気を持った寺であった様子などが分かります。

▽本蓮寺朝鮮通信使詩書(9幅)

件名(名称)	作者	年代
1 朝鮮通信使従事官申濡詩書	申濡	1643年
2 朝鮮通信使従事官申濡詩書	申濡	1643年
3 朝鮮通信使製述官朴安期詩書	朴安期	1643年
4 朝鮮通信使正使趙珩詩書	趙珩	1655年
5 朝鮮通信使副使兪瑒詩書	兪瑒	1655年
6 朝鮮通信使副使任守幹詩書	任守幹	1711年
7 朝鮮通信使李邦彦詩書	李邦彦	1711年
8 朝鮮通信使従事官書記南聖重詩書	南聖重	1711年
9 朝鮮通信使製述官李躋詩書	李躋	1711年

牛頭寺古残僧少翠竹蒼藤白日
昏宿客不眠過夜半蚊雷殷、振
重門

申濡
過客為妙上人題

朝鮮通信使従事官申濡詩書(本蓮寺所蔵)

朝鮮通信使などの資料を展示する牛窓海遊文化館(牛窓町牛窓)に、「朝鮮通信使従事官申濡詩書」(上写真)のレプリカ1幅が常時展示されています。

刀剣博物館

テーマ展「朝鮮通信使と日本刀」



- ▷開催期間 11月18日(土)～平成30年2月12日(月)(休館日:月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日に振り替え)、祝日の翌日、年末年始)
- ▷開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ▷場所 備前長船刀剣博物館
- ▷入館料 一般500円、大学・高校生300円(団体割引あり)

- ▷展示内容 世界記憶遺産への登録決定を記念した展示です。江戸時代には来日した通信使へ江戸幕府から日本刀が贈答されました。そのときに制作を担った刀匠たちの別作品や文書などの当時の資料を展示しつつ、当時の日韓交流の様子を紹介します。
- 備前長船刀剣博物館 ☎0869-66-7767